



7月に入り、夏の暑さ真っ盛りの季節になりました。この地方も先月7日に梅雨入りしましたが、今の所、まとまった雨が余り降っていませんが、九州北部地域では、豪雨により、土砂災害・水災害が発生しています。今後も、気象情報に十分注意してください。また、熱中症に注意して、暑い夏を乗り切りましょう。

現在、遠山川砂防出張所管内は、2件の整備工事を施工中です。ともに、南信濃此田地先において、集水井の増打集水ボーリングの施工を行います。今回は、集水井の増打集水ボーリングについて作業内容と、先月6/29に行った上村小学校の仕事体験会について、ご紹介します。

地すべり対策 集水井内の増打集水ボーリング 地下水の排除へ

集水ボーリングとは、地すべり対策として地すべり地域内の地下水排除を目的で行う工事です。

地すべりは、山のふもとや丘の斜面で地面が動き出す事で、地質的に粘土層等のすべりやすい面の降雨、融雪による地下水の上昇が原因と考えられます。八重河内此田地区は、昭和51年に地すべり防止区域に指定され、昭和63年に直轄事業化されてから、今まで行ってきた工事により、地下水位は低下しており、安全性は向上しています。

しかし、一部において降雨時等に水位が十分低下していない箇所があります。そのため、この度の工事で、既設集水井から追加の水抜きをする集水ボーリングを行います。

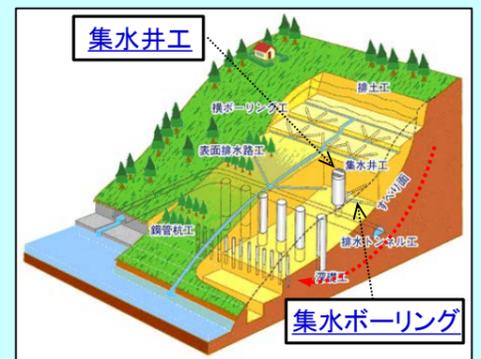
集水ボーリングは、集水井内から横にφ90ミリの穴を削孔し、φ40ミリの保孔管(地下水を集水する穴の開いた塩ビ管)を挿入・設置する作業を行います。

作業は、集水井内に削孔を行うボーリングマシンの設置から始まります。足場の組立→マシン設置→削孔→保孔管設置→マシン撤去という流れで施工を行います。

施工予定内容

施工箇所 6箇所
総延長 2225m
本数 47本
深さ 3.75m~18.25m
1本のボーリング長さ 40m~50m

地下水排除のイメージ



ボーリング作業状況



地下水排除状況 (過去の施工例)



工事現場の仕事体験 上村小学校仕事体験会を実施しました!

飯田市立上村小学校で6/29に仕事体験会が行われました。「土砂災害防止月間」である毎年6月に、事業内容の周知と防災知識の普及を目的として開催しました。児童たちはまず教室で、土砂災害の仕組みや砂防施設の概要、土石流からの避難方法、危険区域、避難場所等について学びました。その後、校庭に出て事業を実施する上で、基本となる測量技術について、実際に体験しました。

当日は天候にも恵まれ、校庭では最新の測量機器である追尾式TS(トータルステーション)やGNSS(GPSを使用した測量機器)について学び、自分の身長測定や投げたボールの距離を実際に測定体験を行いました。最後にドローンの操作体験を行い、生徒や先生全員でドローンによる記念撮影を行いました。

砂防、防災の学習風景



GNSS測量機による身長測定



投げたボールの飛距離を TS測量機で測定体験



ドローンによる記念撮影 『上村小』の人文字



※参加した児童たちの声

- ・土砂災害の学習では、とても造るのが大変だし、大変な仕事なんだなあと分かったし、色んな土砂や地盤の崩れとかを、止める方法が色々あったのが、びっくりしました!
- ・(砂防施設は)自分たちを守ってくれるので、とても頼もしい存在です!
- ・見たことない機械に、触れることができて楽しかった!